

地域課題の解決に向けた取組

造林作業の省力化への取組

網走西部森林管理署西紋別支署

【はじめに】

網走西部森林管理署西紋別支署が管理経営する国有林野は、滝上町と紋別市に広がる約 8.4 万ヘクタールで、主に天塩岳を源とする渚滑川流域に位置しています。

紋別市元紋別地区には、オホーツク海から吹きつける塩分を含んだ強風や飛砂による気象害などを緩和するため、昭和 33 年頃より森林造成してきた海岸防災林があります。

昭和 48 年頃から海岸の侵食がはじまり、その後も土砂の流出や防風林の崩落などが激しくなってきた後は、防潮護岸などの整備を進めています。



また、平成 19 年 12 月には、地域ニーズを踏まえ、当支署を含めた網走西部流域の国有林全域で SGEC 森林認証を取得しました。

【地域課題】

西紋別地区において、造林事業に携わる従事者の減少や高齢化は非常に深刻化しており、新たな人材の確保が難しい状況です。

そのため、この担い手不足解消のほか、造林事業の省力化、低コスト化を進めることは急務となっています。

【課題解決に向けた取組】

当支署では滝上町・滝上町森林組合・地元事業体などと協力をしながら、小学生を対象とした森林環境教育を継続的に行っております。

このほか、平成 28 年度からコンテナ苗を用いた低密度植栽により、造林作業の省力化・効率化へ向けた試験的な取組を進めてきました。地域の民有林関係者に対して、取組内容を月刊誌の作成・配布や森林施業に関する勉強会等を実施するなどして情報発信を行ってきました。

【今後の取組】

北海道森林管理局の重点取組事項の中で掲げられている「新しい林業」の実現に向けた取組を実践していきます。

伐採から再造林・保育までの収支を黒字転換するため、下刈機械の使用を前提とした低密度植栽を行い、その後のリモコン式機械を使用した下刈の様子を、見学会や継続的なモニタリング等を通じて管内森林組合や林業事業体など民有林関係者へ情報提供していきます。

低密度植栽や機械下刈等の技術が、民有林における保育作業省力化に向けた検討の一助となり、林業従事者の減少という問題を補うことができると考えています。



リモコン式機械の下刈